

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301214		
法人名	社会福祉法人 加茂光陽会		
事業所名	グループホーム杉宮		
所在地	岡山県津山市杉宮820-1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 11 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念は『私たちが目指すものは〇人間愛あふれる老人の理想郷づくり〇「愛と和とやさしさ」を持った奉仕の心』。それをふまえてグループホーム杉宮として考えたビジョンは『優しい』『安心』『楽しい』『笑顔』『幸せ』がキーワード。気持ちの良いテラスから畑の野菜や周囲の花、池に来る鳥を眺め、地域の方との交流を図りながら住み慣れた地域で「ここに来て良かった。ここがいい。ここに居たい。」とご利用も家族も職員も、そう感じれる場所でありたい。季節を感じながら出来るだけ穏やかな生活ができるように、介護される人と職員ではなく、同じ時間を共に過ごすという関係を大切に『第2のおうち』とっていただけるように意識している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301214-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員や利用者にとって人間愛あふれる理想の郷づくりが実践されている。経験豊かな管理者を中心に、その背中を追いかけて日々努力する次の担い手が出て、そしてその姿を見て頑張る新人職員が一体となり介護に従事していた。利用者と会話をする際には立ち話ではなく、今ではすっかり馴染みとなっている、まる～い小さな椅子を使用して、より近い位置で寄り添いながら和を作っている。2つのユニットを繋ぐ廊下を歩き来する事で運動ができ、ユニット間での馴染みの関係が形成されていた。大きな窓を開け、広いテラスに出ると目の前には池があり、そこには鳥が来たり花を眺められたりして、利用者はここで季節を感じることが出来る。また、地域との交流も再開されつつある中で、散歩中の挨拶に加え、作品を持参しての交流も成果が上がっている。近くの野菜直売所に利用者と一緒に出掛けたり、各ユニットで手作りされる食事にも、笑顔が増し会話が弾んでいる。職員だけでなく利用者も、「ここに来て良かった。ここがいい。ここにいたい。」と感じる場所となっていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに、自分たちが実践出来る具体的な思いを、職員ひとりひとりに書き出してもらった。その中で多く出てきたのが『優しい』『安心』『楽しい』『笑顔』『幸せ』という言葉が含まれていた。職員はそのように努力している。	理念は、事務室の2ヶ所とリビングに掲示している。会議の資料にも掲載することで、目に触れる機会を作っている。理事長からの指針「夢」についても掲げている。管理者は、みんなに支えて頂いていると感謝の気持ちで日々の介護に従事している。ロッカーに個人目標を貼ることで、やる気を高めている。	職員の共通認識として、原点に戻れるように工夫してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、交流の機会が随分少なくなり残念であるが、そんな中でも、子ども会からの「何かをしたい」との申し出を受けたり、避難訓練をするときには消防団の方々が8人も参加して下さいました。とてもありがたい。	地元の消防団と一緒に避難訓練ができた。夏に納涼祭があり、子ども達からのプレゼントや握手を交わして、利用者には笑みがこぼれていた。前回の評価を受けて、地域の登下校の見守りも行うことができた。地域の市場へ出掛け、野菜を購入したり、会話をしたりして交流を図っている。	地域交流を深める工夫をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員の方を通じてお伝えをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練と運営推進会議を一緒に行うこともあり、実際のご利用者や職員の動きを見ていただいた。	参加者は、高齢介護課、愛育栄養委員、民生児童委員、管理者。入居者状況、面会・外出状況、勉強会、虐待・身体拘束廃止の対策についての報告を行った。津山市が主催している「こけないからだいたいそう」を週1回取り入れるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営についても不明な点や悩む点については随時、相談をしている。	窓口は、各ユニットの管理者。何かわからないことがあれば、すぐに電話で確認をしている。直近では、職員の人数配置についての相談があり、直接役所に出向いて、一緒に解決策を模索して頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修会、およびグループホーム独自の身体拘束に関する勉強会を行い、職員会議やユニット会議の中などで話し合いを行っている。	身体拘束はしていない。日中は玄関やベランダの施錠はしておらず、出入りは可能で、安全に考慮してセンサーを設置している。勉強会では、自己点検シートにて、拘束にあたるかどうかの確認をし、研修会では、事例を基に意見を出し合い、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、不適切な介護などについても、言葉使いや接遇について意識し合うように働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方が入居されたので連携している。青年後見人制度利用の提案をしていた方が利用に至った。他も提案し、相談中の方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り、出来るだけゆっくりと対応ができるようにしている。そのうえで資料を持ち帰ってゆっくり見ていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族のご意見や要望を日常的に聞き取るように意識しており、出来るだけ反映出来るように努力している。	利用者に傾聴する姿勢が見られ、日常生活や会話を大切にしている。利用者からの要望で、洗濯物を自分の部屋に干したり、食事の量を減らしたりした。リビングでの座席や位置を希望に添える形に工夫している。ゴルフがしたいという方と、一緒にパターゴルフをしたら、喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期としては年2回の面談。さらに随時の意見を聞く機会を意識している。また年度末に1年間の振り返りとともに来年度に向けての提案を書き出してもらい、出来るところから取り入れている。	月1回、各ユニット会議では意見を聴取していて、リビングの手すり、脱衣所のタッチアップ、車イスでも測れる体重計が設置された。管理者が年2回、個別面談を実施している。勉強会では、自由意見欄を設けていて、職員からは様々な意見が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に各職員の状況(長所・短所、頑張っているところ)を報告している。職場環境の改善など可能なところから進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアル作成により、基本的な事、一定のラインを示しつつ、個々の職員の特性も配慮しながら働きかけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより機会が減っていたが少しずつ外部研修などで同業者との交流をはかっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会は、出来るだけご自宅に伺い、ご家族と一緒にくつろいだ中でお話をお聞きするようにしている。グループホームに入居する事での要望はこの段階で聞くことは困難。日頃の様子これまでの様子を聞くことから始める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や、見学に来られての話の中でゆっくり聞かせていただくようにしている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居することだけの内容ではなく、今の困りごとと、これからのことについて、まずはご家族がどのようにしたいと考えているのか、思いを聞くようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的にコミュニケーションを図り、ゆっくりと話す時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ前の個人の居室でゆっくり面会はできないものの玄関で、回数や時間の制限を設けず出来るだけ会える機会を作っている。職員もご様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族ですら会う機会が減っている今日、いかに工夫するか悩んでいる。	面会は玄関で対面式で実施していて、時間や人数制限は設けていない。コロナ禍では、窓越しで携帯電話を使用した面会を行っていた。関東や東海地区に住んでいる方も面会に来られて、普段口数が少ない利用者も楽しく会話が盛り上がり、目には涙を浮かべていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方々の様子に応じて、席を設けたり、一緒に活動出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の方の相談に乗ることもある。出来ることはしたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の状態に応じて話を聞いたり、言葉で表せない場合にも、表情や態度により理解しようと努めている。	利用者との会話や触れ合いを大切にしている、椅子に座り、利用者の隣で傾聴するように努めている。表情や仕草からも読み取るようにして、何か変化があれば、職員間で情報を共有している。トイレ誘導の際には、さりげなく言葉掛けをして、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関係のあった事業所ご家族との話やご本人との会話の中で情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを出来るだけ聞き取り、職員同士が意見を出し合えるように工夫している。	利用者の情報は管理者にすぐに伝え、申し送り時に情報を共有している。日常の様子で気づいたことがあれば、利用者や施設全体問わず、ノートに記録し、ケア会議で参考にしている。介護計画は半年に1度更新し、モニタリングで検討した内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議やユニット会議での話し合いや、気づいたときに書き出してもらうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度相談しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で出来た野菜を買いにほほえみ彩菜へご利用者と一緒に行ったり、散髪は地元の方が来られ、顔見知りだったり、地元の話で盛り上がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、これまでのかかりつけ医が継続できるようにしている。	かかりつけ医は入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が元のかかりつけ医を受診している。月2回往診に来られ、ドクターとの関係も良く、握手をして笑顔で挨拶を交わしている。週1回、訪問看護の方が来所して、職員がわからないことでも、親切丁寧に答えて頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、訪問時はもちろん、電話での相談など随時連絡・相談が出来る状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご家族、病院との連絡を取り合いながら、退院時の生活がスムーズに出来るように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態については随時、ご家族に伝えるように努めている。当事業所では対応可能なこと、不可能なことの説明をし、他の社会資源についての情報提供を行っている。	基本看取りは実施していなかったが、終末期に差し掛かった利用者が出て、看取りが行える体制を整えている。入居時に「看取りに関する指針」にて説明し、終末期を迎えるにあたり、「看取り介護についての同意書」にサインを頂き、家族と細かく意見交換を行えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会において知識を広げたり、救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会において知識を広げたり、津山市の警戒アラームの時や災害にはならずとも、軽い地震や大雨や風が強い時などには随時、対応について伝え合うようにしている。	年2回夜間火災想定で実施し、AEDの使用方法や消火器を使った訓練もできた。防災会社の立ち合いの基、消防器具の点検や使用方法を教えて頂けた。備蓄はリストに記載しているので、全職員で把握することができている。水、レトルト食品など2日分を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『接遇』について振り返る機会を持ち、各自が考えるようにしている。	呼称は苗字に「さん」を付けて、同姓の方には、下の名前に「さん」付けて呼んでいる。居室の扉はカーテンを敷いていて、ネームプレートは花の名前で統一している。年1回、接遇についての勉強会を開催し、職員同士で意見を出し合って共有している。新人職員には、研修にて接遇に触れる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、思いが聞けるように、思いをくみ取れるように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、個々に応じたペース、その人らしい生活が出来るように、聞き取りをしたり思いを想像したり、職員同士で話し合ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の誕生日には、希望を聞き、それに沿えるようにしたり、時には食べたいものを聞いたり、季節の野菜が届いた時にはみんなで下ごしらえをしていただくこともある。	理事長の思いを尊重し、手作りを大切にしている、一人ひとりに合わせた味付けとなっている。食材のみが業者から届き、3食手作りをしている。食事の栄養素は、写真付きの献立を管理栄養士が確認している。テラスで育てた野菜(トマトししとう)が食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じての味の濃さや、形態の変化、量などを考えてその都度職員同士が相談しながらすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、舌ブラシ、口腔ケアスポンジ、口腔ケアティッシュ、などその方に応じた方法を考えて工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた排泄パターンや、パット使用、など随時検討している。日中は全員トイレ、夜間は必要に応じてポータブルトイレを設置している。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェックは、タブレットに記載しているので情報共有が出来ている。声かけの回数を増やしたら、失敗が減りパットのサイズが変わった。安眠や安全に考慮して、夜はオシメをしたり、ポータブルトイレを使用したりしている。日中、布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が少ない方に、お茶以外の飲み物や、ゼリー系のものなどを手作りしたり提供方法、提供回数など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間や頻度は決めているが、柔軟な対応を心がけている。清潔保持のためだけではなく、ゆっくりとコミュニケーションを図る時間と捉えた対応を心がけている。	基本は週2回だが、希望回数にもできるだけ対応している。入浴を拒否される方へは、人や時間を変えて言葉掛けをしている。入浴されなかった方へは、夜入浴や入浴剤を使用したら、スムーズに誘導でき、季節湯としてゆず湯の提供もある。お風呂は貴重なコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に応じて、ほとんど自由に、過ごさせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書ファイルはすぐに見えるようにしておき確認が出来る。また、わかりやすいように記載するなどの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑や花が好きな方用のプランター、野菜の下ごしらえ、以前に得意としていた編み物、興味のある雑誌の用意、塗り絵、パズル、計算ドリルなど工夫している。また月1回は季節の行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節のドライブや買い物などの機会を少しずつ実施している。	テラスでは、日向ぼっこをして会話を楽しんだり、食事をしたりしている。散歩や洗濯物干しで外気に触れている。春には満開の桜を堪能し、秋には近隣に実っている柿を散歩がてら採りに行くのも楽しみの一つとなっている。両ユニットの行き来は可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金入りの財布を持っている方もあるが、ご家族了解のもとでご本人管理としている。職員側としての管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参されている方もおられ、一緒に電話をかけたり、携帯電話でなくとも		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策として向かい合っの食事を避けるためレイアウトを工夫しているが、窓からの景色を見て季節を感じられるようにテーブルやソファの配置を意識している。	リビングの座席は、利用者全員が日差しが降り注ぐ方向で、自然を肌で感じられるように工夫している。壁面は、秋を演出する紅葉や柿が実り、施設内でも季節を味わえている。TVを観たり、新聞や雑誌を読んだりして、ティータイムを楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所、ソファ、居室その時々でご利用者の思い、様子、状況に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、自分の部屋として過ごしていただくために、ご家族の写真や大切にしてきたもの、ご本人が落ち着けるものがあれば持ってきていただくようお願いしている。	備え付けは、ベッド、エアコン、絵画、床頭台、椅子。安全面に配慮して家具を設置している。裁縫が得意な方は、自分で作ったタペストリーや小さな人形が飾られていた。毎日、写真に手を合わせて、家族を忍んでいる方もいる。希望により洗濯物を自室に干される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるような動線作り、わかりやすい表示など工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370301214		
法人名	社会福祉法人 加茂光陽会		
事業所名	グループホーム杉宮		
所在地	岡山県津山市杉宮820-1		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 11 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念は『私たちが目指すものは〇人間愛あふれる老人の理想郷づくり〇「愛と和とやさしさ」を持った奉仕の心』。それをふまえてグループホーム杉宮として考えたビジョンは『優しい』『安心』『楽しい』『笑顔』『幸せ』がキーワード。気持ちの良いテラスから畑の野菜や周囲の花、池に来る鳥を眺めながら「ここに来て良かった。ここがいい。ここに居たい。」ご利用者もご家族も職員も、そう感じられる場所でありたい。というもの。自宅で暮らすことはかなわないけれど、自然を感じ、季節を感じながら、出来るだけ穏やかな生活が出来るように、『第2のおうち』とっていただけるように意識している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370301214-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 10 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員や利用者にとって人間愛あふれる理想の郷づくりが実践されている。経験豊かな管理者を中心に、その背中を追いかけて日々努力する次の担い手がいて、そしてその姿を見て頑張る新人職員が一体となり介護に従事していた。利用者との会話をする際には立ち話ではなく、今ではすっかり馴染みとなっている、まる〜い小さな椅子を使用して、より近い位置で寄り添いながら和を作っている。2つのユニットを繋ぐ廊下を歩き来する事で運動ができ、ユニット間での馴染みの関係が形成されていた。大きな窓を開け、広いテラスに出ると目の前には池があり、そこには鳥が来たり花を眺められたりして、利用者はここで季節を感じる事が出来る。また、地域との交流も再開されつつある中で、散歩中の挨拶に加え、作品を持参しての交流も成果が上がっている。近くの野菜直売所に利用者と一緒に出掛けたり、各ユニットで手作りされる食事にも、笑顔が増し会話が弾んでいる。職員だけでなく利用者も、「ここに来て良かった。ここがいい。ここにいたい。」と感じる場所となっていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに、自分たちが実践出来る具体的な思いを、職員ひとりひとりに書き出してもらった。その中で多く出てきたのが『優しい』『安心』『楽しい』『笑顔』『幸せ』という言葉が含まれていた。職員はそのように努力している。	理念は、事務室の2ヶ所とリビングに掲示している。会議の資料にも掲載することで、目に触れる機会を作っている。理事長からの指針「夢」についても掲げている。管理者は、みんなに支えて頂いていると感謝の気持ちで日々の介護に従事している。ロッカーに個人目標を貼ることで、やる気を高めている。	職員の共通認識として、原点に戻れるように工夫してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナのため交流の機会は減っているが子供会からの贈り物や大雪の際には地域の方が雪かきをしてくださったり避難訓練をするときには消防団の方々から8名参加していただき、とてもありがたい。	地元の消防団と一緒に避難訓練ができた。夏に納涼祭があり、子ども達からのプレゼントや握手を交わして、利用者には笑みがこぼれていた。前回の評価を受けて、地域の登下校の見守りも行うことができた。地域の市場へ出掛け、野菜を購入したり、会話をしたりして交流を図っている。	地域交流を深める工夫をしてみたいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員の方々を通じて伝えていたが、コロナ禍により最近では出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍により、文書による報告にとどまっている。	参加者は、高齢介護課、愛育栄養委員、民生児童委員、管理者。入居者状況、面会・外出状況、勉強会、虐待・身体拘束廃止の対策についての報告を行った。津山市が主催している「こけないからだたいそう」を週1回取り入れるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括ケア会議への参加や、成年後見制度の利用について相談している。また津山市高齢介護課がすすめている『こけないからだ体操』を指導してもらい、実施している。	窓口は、各ユニットの管理者。何かわからないことがあれば、すぐに電話で確認をしている。直近では、職員の人数配置についての相談があり、直接役所に出向いて、一緒に解決策を模索して頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体の研修会、およびグループホームの取り組みとし勉強会資料作成や職員1人ずつの考えなどを記入し意識の向上の努めている。	身体拘束はしていない。日中は玄関やベランダの施錠はしておらず、出入りは可能で、安全に考慮してセンサーを設置している。勉強会では、自己点検シートにて、拘束にあたるかどうかの確認をし、研修会では、事例を基に意見を出し合い、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の研修会、およびグループホーム独自の身体拘束に関する勉強会を行い、職員会議やユニット会議の中などで話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用しているご利用者もおられる。他にも必要と思われる方がおられ、関係者と相談中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を取り、出来るだけゆっくりと対応ができるようにしている。そのうえで資料を持ち帰ってゆっくり見ていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族のご意見や要望を日常的に聞き取るように意識しており、出来るだけ反映出来るように努力している。	利用者に傾聴する姿勢が見られ、日常生活や会話を大切にしている。利用者からの要望で、洗濯物を自分の部屋に干したり、食事の量を減らしたりした。リビングでの座席や位置を希望に添える形に工夫している。ゴルフがしたいという方と、一緒にパターゴルフをしたら、喜んで頂けた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期としては年2回の面談。さらに随時の意見を聞く機会を意識している。また年度末に1年間の振り返りととも到来年度に向けての提案を書き出してもらい、出来るところから取り入れている。	月1回、各ユニット会議では意見を聴取していて、リビングの手すり、脱衣所のタッチアップ、車イスでも測れる体重計が設置された。管理者が年2回、個別面談を実施している。勉強会では、自由意見欄を設けていて、職員からは様々な意見が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に各職員の状況(長所・短所、頑張っているところ)を報告している。職場環境の改善など可能なところから進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	マニュアル作成により、基本的な事、一定のラインを示しつつ、個々の職員の特性も配慮しながら働きかけをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での関わりの機会が少しはあるが、コロナ禍ということで外部との関わりはなかなか出ていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面会は、出来るだけご自宅に伺い、ご家族と一緒にくつろいだ中でお話をお聞きするようにしている。グループホームに入居する事での要望はこの段階で聞くことは困難。日頃の様子これまでの様子を聞くことから始める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や、見学に来られての話の中でゆっくり聞かせていただくようにしている。。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居することだけの内容ではなく、今の困りごとと、これからのことについて、まずはご家族がどのようにしたいと考えているのか、思いを聞くようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的にコミュニケーションを計り、ゆっくりと話す時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡を心がけている。以前は面会に来られ、ご利用者の部屋でゆっくりと、またはホール内で他の方々との会話を楽しんでいましたが、コロナ禍でそうしたことが出来ない。話す機会は減っている。オンライン面会を始めた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ある程度の制限は設けているが、ご家族や友人の面会時などゆっくりと話ができるように対応している。	面会は玄関で対面式で実施していて、時間や人数制限は設けていない。コロナ禍では、窓越しで携帯電話を使用した面会を行っていた。関東や東海地区に住んでいる方も面会に来られて、普段口数が少ない利用者も楽しく会話が盛り上がり、目には涙を浮かべていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方々の様子に応じて、席を設けたり、一緒に活動出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の方の相談に乗ることもある。出来ることはしたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の状態に応じて話を聞いたり、言葉で表せない場合にも、表情や態度により理解しようと努めている。	利用者との会話や触れ合いを大切にしている、椅子に座り、利用者の隣で傾聴するように努めている。表情や仕草からも読み取るようにして、何か変化があれば、職員間で情報を共有している。トイレ誘導の際には、さりげなく言葉掛けをして、思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に関係のあった事業所ご家族との話やご本人との会話の中で情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活が出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いを出来るだけ聞き取り、職員同士が意見を出し合えるように工夫している。	利用者の情報は管理者にすぐに伝え、申し送り時に情報を共有している。日常の様子で気づいたことがあれば、利用者や施設全体問わず、ノートに記録し、ケア会議で参考にしている。介護計画は半年に1度更新し、モニタリングで検討した内容を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議やユニット会議での話し合いや、気づいたときに書き出してもらうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度相談しながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源の活用をどのようにすべきか悩むところ。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、これまでのかかりつけ医が継続できるようにしている。	かかりつけ医は入居時に選んで頂けるが、ほとんどの方が元のかかりつけ医を受診している。月2回往診に来られ、ドクターとの関係も良く、握手をして笑顔で挨拶を交わしている。週1回、訪問看護の方が来所して、職員がわからないことでも、親切丁寧に答えて頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、訪問時はもちろん、電話での相談など随時連絡・相談が出来る状況にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、ご家族、病院との連絡を取り合いながら、退院時の生活がスムーズに出来るように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態については随時、ご家族に伝えるように努めている。当事業所では対応可能なこと、不可能なことの説明をし、他の社会資源についての情報提供を行っている。	基本看取りは実施していなかったが、終末期に差し掛かった利用者が出て、看取りが行える体制を整えている。入居時に「看取りに関する指針」にて説明し、終末期を迎えるにあたり、「看取り介護についての同意書」にサインを頂き、家族と細かく意見交換を行えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会において知識を広げたり、救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会において知識を広げたり、津山市の警戒アラームの時や災害にはならずとも、軽い地震や大雨や風が強い時などには随時、対応について伝え合うようにしている。	年2回夜間火災想定で実施し、AEDの使用方法や消火器を使った訓練もできた。防災会社の立ち合いの基、消防器具の点検や使用方法を教えて頂けた。備蓄はリストに記載しているので、全職員で把握することができている。水、レトルト食品など2日分を保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『接遇』について振り返る機会を持ち、各自が考えるようにしている。	呼称は苗字に「さん」を付けて、同姓の方には、下の名前に「さん」付けて呼んでいる。居室の扉はカーテンを敷いていて、ネームプレートは花の名前で統一している。年1回、接遇についての勉強会を開催し、職員同士で意見を出し合って共有している。新人職員には、研修にて接遇に触れる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、思いが聞けるように、思いをくみ取れるように意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力、個々に応じたペース、その人らしい生活が出来るように、聞き取りをしたり思いを想像したり、職員同士で話し合ったりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみを意識している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の誕生日には、希望を聞き、それに沿えるようにしたり、時には食べたいものを聞いたり、季節の野菜が届いた時にはみんなで下ごしらえをしていただくこともある。	理事長の思いを尊重し、手作りを大切にしている。一人ひとりに合わせた味付けとなっている。食材のみが業者から届き、3食手作りをしている。食事の栄養素は、写真付きの献立を管理栄養士が確認している。テラスで育てた野菜(トマトししとう)が食卓を彩っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じての味の濃さや、形態の変化、量などを考えてその都度職員同士が相談しながらすすめており、法人の管理栄養士に助言をもらい、食事について見直す機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、舌ブラシ、口腔ケアスポンジ、口腔ケアティッシュ、などその方に応じた方法を考えて工夫している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合わせた排泄パターンや、パット使用、など随時検討している。日中は全員トイレ、夜間は必要に応じてポータブルトイレを設置している。	トイレは各ユニット4ヶ所ある。排泄チェックは、タブレットに記載しているので情報共有が出来ている。声かけの回数を増やしたら、失敗が減りパットのサイズが変わった。安眠や安全に考慮して、夜はオシメをしたり、ポータブルトイレを使用したりしている。日中、布パンツで過ごしている方も数名おられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取が少ない方に、お茶以外の飲み物や、ゼリー系のものなどを手作りしたり提供方法、提供回数など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間や頻度は決めているが柔軟な対応に努めている。清潔保持のためだけでなく、ゆっくりとコミュニケーションを計る時間と捉えた対応を心がけている。	基本は週2回だが、希望回数にもできるだけ対応している。入浴を拒否される方へは、人や時間を変えて言葉掛けをしている。入浴されなかった方へは、夜入浴や入浴剤を使用したら、スムーズに誘導でき、季節湯としてゆず湯の提供もある。お風呂は貴重なコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に応じて、ほとんど自由に、過ごせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書ファイルはすぐに見えるようにしておき確認が出来る。また、わかりやすいように記載するなどの工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑や花が好きな方用のプランター、野菜の下ごしらえ、以前に得意としていた編み物、興味のある雑誌の用意、塗り絵、パズル、計算ドリルなど工夫している。また月1回は季節の行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦により外出の機会は減っているが、季節のドライブや買物などの機会を少しずつ実施している。	テラスでは、日向ぼっこをして会話を楽しんだり、食事をしたりしている。散歩や洗濯物干しで外気に触れている。春には満開の桜を堪能し、秋には近隣に実っている柿を散歩がてら採りに行くのも楽しみの一つとなっている。両ユニットの行き来は可能となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金入りの財布を持っている方もあるが、ご家族了解のもとでご本人管理としている。職員側としての管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば希望に沿う。ご家族からの連絡時に直接、話しをしていただくなど柔軟に対応している。携帯電話を持たれている方は職員と一緒にご家族に連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ対策として向かい合っの食事わ避けるためレイアウトを工夫しているが、窓からの景色を見て季節を感じられるようにテーブルやソファの配置を意識している。	リビングの座席は、利用者全員が日差しが降り注ぐ方向で、自然を肌で感じられるように工夫している。壁面は、秋を演出する紅葉や柿が実り、施設内でも季節を味わえている。TVを観たり、新聞や雑誌を読んだりして、ティータイムを楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所、ソファ、居室その時々でご利用者の思い、様子、状況に応じた柔軟な対応を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れた家具などを持ってきていただき、ご本人が落ち着けるようにしている。	備え付けは、ベッド、エアコン、絵画、床頭台、椅子。安全面に配慮して家具を設置している。裁縫が得意な方は、自分で作ったタペストリーや小さな人形が飾られていた。毎日、写真に手を合わせて、家族を忍んでいる方もいる。希望により洗濯物を自室に干される方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるように新たに手すりを設置したり、わかりやすい表示など工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない